

「北陸電力グループCSR報告書2007」の発行について

平成19年9月28日
北陸電力株式会社

当社は、本日、北陸電力グループのCSR（Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任）に関する取組みを取りまとめた「北陸電力グループCSR報告書2007」を発行しました。

今回の報告書では、巻頭特集として「発電設備に関する不適切な取扱いと再発防止対策」を取り上げ、事実の概要・原因、再発防止対策と施策の実施状況、社外有識者の方々による検証委員会での審議・評価を記載するなど、信頼回復へ向けたグループ一丸となった取組みをご紹介します。このほか、「志賀原子力発電所2号機低圧タービンの羽根損傷と設備総点検」、「原子力発電所の耐震安全性」を記載するとともに、グループ会社の取組みについても幅広く取上げています。

当社グループは、再発防止対策を確実に実行するとともに、電力の安定供給、地域との共生、地球環境問題などに着実に取り組んでいきます。本報告書を通じ、皆さまとのコミュニケーションを深め、ご意見ご要望に誠実にお応えしていくことにより、再び信頼され選択される企業となるよう努めてまいります。

なお、本報告書は当社ホームページ「CSRへの取組み」(<http://www.rikuden.co.jp/csr>)からダウンロードいただけます。

以 上

<添付資料>別紙：「北陸電力グループCSR報告書2007」の概要（掲載順）
「北陸電力グループCSR報告書2007」概要版

「北陸電力グループCSR報告書2007」の概要（掲載順）

1. 社長あいさつ（トップメッセージ）（2～3ページ）

発電設備に関する不適切な取扱いに対する再発防止対策を確実に実行していくとともに、電力の安定供給、地域との共生、環境にやさしい社会の実現に向けた取組みなど、当社グループの社会的責任に対する取組みについて社長メッセージを掲載しています。

2. 特集「発電設備に関する不適切な取扱いと再発防止対策」他（4～13ページ）

発電設備に関する不適切な取扱いについて、事実の概要・原因ならびに「隠さない企業風土づくり」と「安全文化の構築」を柱とする再発防止対策の概要・実施状況を掲載しています。（【別添概要版】「発電設備に関する不適切な取扱いと再発防止対策」参照）

また、そのほか2006年度に発生したコンプライアンス違反事例と再発防止への取組みについて掲載しています。

3. 経営面での取組み（14～23ページ）

経営の重点方針、コーポレート・ガバナンス体制などの記載のほか、特集として、経営に大きな影響を受けた事案について、事実の概要、対応など（【別添概要版】「志賀原子力発電所2号機低圧タービンの羽根損傷と設備の総点検」「原子力発電所の耐震安全性について」参照）を掲載しています。

4. ステークホルダーの皆さまとともに（24～39ページ）

低廉で良質な電気の安定供給、地域のスポーツ・文化振興活動や次世代層への教育支援、子供の安全確保に役立つ取組みなど地域社会との共生に向けた取組み（【別添概要版】「ステークホルダーの皆さまとともに」参照）、株主・投資家に対する取組みなど、各ステークホルダーに対する具体的な取組みを掲載しています。

5. 環境にやさしい社会の実現を目指して（40～63ページ）

CO₂排出原単位の抑制や「1人、1日、1kgCO₂削減」への取組みなど地球温暖化防止に向けた取組みやPCB対策の推進など環境保全に関する取組み（【別添概要版】「環境にやさしい社会の実現を目指して」参照）、産業廃棄物等最終処分量の低減やオフィスごみゼロ活動などの循環型社会形成に向けた取組みなどについて掲載しています。

6. 第三者意見（65ページ）

社外の有識者（福井県立大学 坂田幹男教授）から頂いたご意見を紹介しています。

以上

「北陸電力グループCSR報告書2007」概要版

CSRとは、Corporate Social Responsibility の略で、企業の社会的責任と訳されます。企業が本来の事業活動や環境問題への対応、地域共生活動などの行動を通じて、社会への責任を果たし、信頼を得ていくことなどを指します。

特集 発電設備に関する不適切な取扱いと再発防止対策

当社は、経済産業省原子力安全・保安院長からの「発電設備に係る点検について」の指示に基づき、水力・火力・原子力発電設備全般にわたる点検を実施いたしました。この中で、1999年6月の志賀原子力発電所1号機の定期検査中に、原子炉において臨界事故を起こすなど、21件の不適切な事案が判明いたしました。地域の皆さまからの信頼を大きく損ね、改めて深くお詫び申し上げます。

一連の発電設備の不適切な事案に対する再発防止対策を策定し、現在実行しています。

発電設備全般にわたる点検結果

<志賀原子力発電所1号機の臨界事故> 1999年6月18日未明、定期検査中の志賀原子力発電所1号機で想定外に制御棒3本が引き抜け、原子炉が臨界になりました。この事故について、約2ヶ月後に控えていた2号機着工などへの影響を考え、事故に関するデータを改ざんし、必要な記録を残していませんでした。

<臨界事故以外の不適切な事案> 原子力、水力、火力発電設備において、20件の不適切な事案がありました。

再発防止対策の概要・実施状況

隠さない企業風土づくり

隠さない・隠せない仕組みを構築します。

全ての事故・トラブルについて、通報前の判定余地をなくし、国への通報を実施しています。

発電所の状況を確認できる情報を国、経営層、原子力本部に伝送します。

企業倫理情報窓口(ホイッスル北電)を、より通報しやすくしました。

企業倫理最重視への意識改革を進めます。

コンプライアンスマインド変革研修等を行い、全社的な意識の底上げを行っています。



安全文化の構築

安全最優先の経営トップの意志を社内外に明確に示します。

地域の皆さま方との対話活動などを通じ、再発防止対策の取組状況をお知らせするとともに、皆さまからのご意見を伺います。



地域と一体となった事業運営を目指します。

「原子力本部」を志賀町に設置し、本部長(副社長)・副本部長(常務)が本部に常駐するとともに、「地域共生本部」を金沢市に設置し、原子力本部長が地域共生本部長を兼務します。



原子力を支える体制をつくります。

経営トップ等と発電部門社員との膝詰めの対話を通じて、風通しの良い職場風土をつくります

再発防止対策のフォロー体制

社長を委員長とする「原子力安全信頼回復推進委員会」と、社外の有識者による中立的立場から再発防止対策の検証・評価を行う「再発防止対策検証委員会」を設置し、再発防止対策の確実な実施・定着に取り組んでいます。

9月3日の「再発防止対策検証委員会」において、再発防止対策が、発電設備に関する不適切な事案の再発防止に十分有効であるとの中間報告(再発防止対策の評価)をいただきました。



再発防止対策検証委員会

特集 志賀原子力発電所2号機低圧タービンの羽根損傷と設備の総点検

低圧タービンの羽根損傷の概要

2006年6月、中部電力浜岡原子力発電所5号機で、低圧タービンで羽根が折損・脱落し、原子炉が停止するトラブルが発生しました。

同型式の志賀2号機のタービンでも点検を実施したところ、低圧タービン12段の羽根840枚のうち、258枚の羽根根元取付部に、ひび割れ256枚、折損2枚を確認しました。

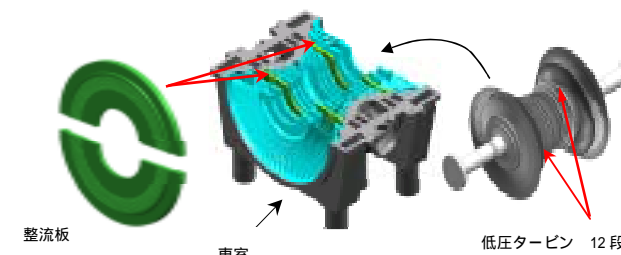
12段以外には、ひび割れの異常はありませんでした。



対策

「蒸気の乱れ」および「一時的な蒸気の逆流」の影響に対して余裕をもつタービン羽根を新たに設計・製作します。

しかしながら、新しい羽根の製作には、実証試験等を含め相当な期間が見込まれることから、その間の安定供給に支障のないよう、12段の羽根を全部取り外し、替わりに整流板を設置して運転することにいたしました。



特集 原子力発電所の耐震安全性について

志賀原子力発電所の地震対策

堅固な岩盤の上に建設：地震の際でも揺れの小さい堅固な岩盤を選び建設しています。

十分余裕のある耐震設計：重要な施設は一般建物の耐震設計基準の3倍の地震力に耐えられるよう余裕をもった設計を行っています。

一定のレベル以上で自動停止：地震感知器を複数箇所に設置し、地震の揺れが震度5程度を超えると原子炉が自動停止します。



能登半島地震を踏まえた志賀原子力発電所の耐震安全性確認

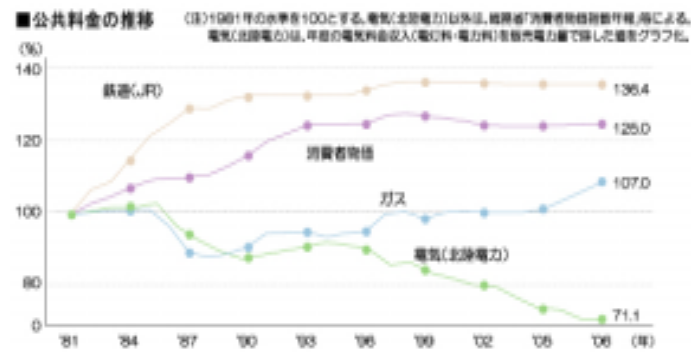
3月25日に能登半島地震が発生しましたが、施設等に安全上問題となる損傷・被害はありませんでした。また、この地震を踏まえても志賀原子力発電所の耐震安全性が十分確保されていることを確認し、確認結果を国に報告しました。この報告は国の委員会でも審議され、妥当であることを確認していただきました。

ステークホルダーの皆さまとともに

お客さま満足の向上 低廉で良質な電気のお届け

低廉な料金水準の維持

2006年7月から規制部門でのお客さまの電気料金を平均で2.65%値下げしました。



最適な電源構成

電気は変動する需要に合わせて発電しなければなりません。水力・火力・原子力それぞれの発電の特徴を踏まえ、バランスよく組み合わせ24時間電気を安定してお届けします。



七尾大田火力発電所

高品質な電力流通システム

お客さまの元へ電気を届ける送電線、変電所、配電線などの電力ネットワークを効率よく運用し、故障などに迅速に対応できるよう、24時間体制で監視を行っています。また、自然災害に備え雪害防止のため、相間スペース、ルーズスペースの設置範囲を拡大するなど、事故防止未然対策を積極的に実施しています。



相間スペース



ルーズスペース

【グループ体となった安定供給の取組み】



作業現場での打合せ

北陸発電工事
発電所の補修工事や定期検査の実施にあたり、品質と作業安全の確保のため、作業時の打合せを徹底するなど、北陸電力と十分連携を図り、安定供給の確保に取り組んでいます。

地域との共生に向けた取組み

「こども110番の車」運動

北陸電力グループ9社では、社用車に「こども110番の車」ステッカーを貼り、子どもたちの安全確保に取り組んでいます。



地域文化の振興支援
地域の皆さまに楽しんでいただける芸術・文化イベントを開催しています。

夏休み科学教室

子どもたちが「科学する心」「自然と親しむ心」を育むためのイベントを開催しています。



能登半島地震災害対応と被災地への支援活動

2007年3月25日、能登半島沖を震源とする地震が発生し、輪島市や穴水町では震度6の烈震に見舞われました。当社およびグループ会社は、停電の早期復旧に取り組むと同時に、お客さまの設備点検を行うなど安全確保に全力を尽くしました。また、北陸電力リビングサービスでは、高齢者にも安心してお使いいただける電気温水器やIHクッキングヒーターを仮設住宅へ無償で貸与しています。



IHクッキングヒーターの操作説明

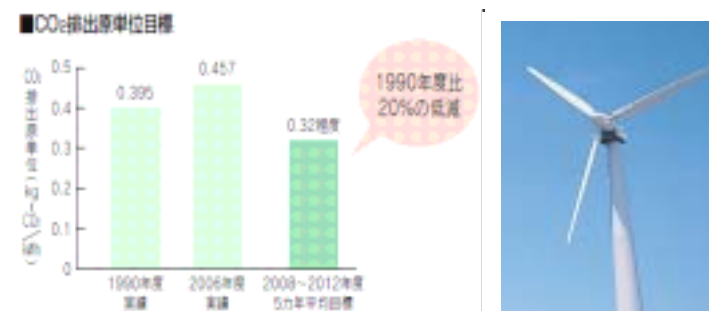
ステークホルダー：お客さま、地域の皆さま、株主の皆さまなど当社グループの事業に関わる全ての方々

環境にやさしい社会の実現を目指して

地球温暖化防止に向けた取組み

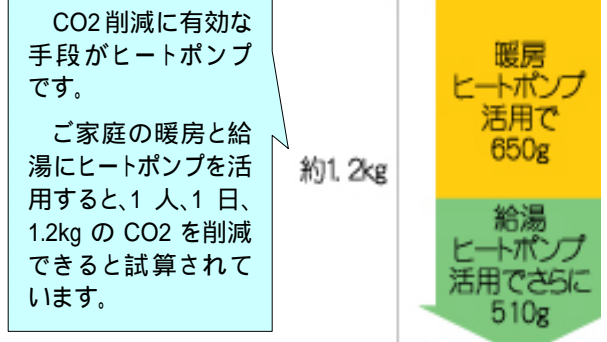
CO2 排出原単位目標

2008年度から2012年度の5年平均で、CO2 排出原単位を1990年度比20%低減する自主目標を定め、原子力の推進や新エネルギーの導入などに取り組んでいます。



「1人、1日、1kgCO2削減」応援キャンペーン協賛

北陸電力では、政府が提唱する「1人、1日、1kgCO2削減」運動へのお客さまの参加を応援しています。



出典：(財)ヒートポンプ・蓄熱センター

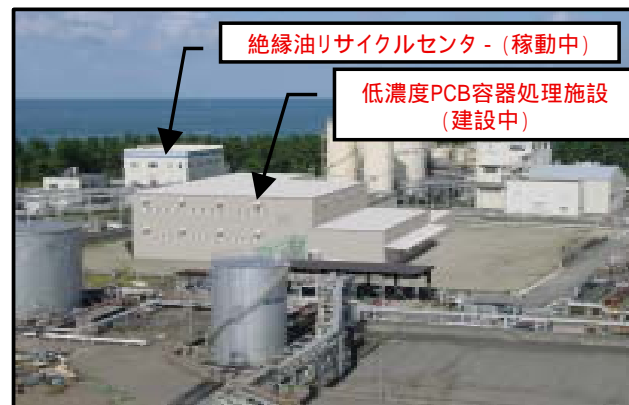
PCB対策の推進

低濃度 PCB 処理

北陸電力では、PCB 廃棄物の処理に積極的に取り組んでいます。

柱上トランスの絶縁油に混入した低濃度PCBについては、2003年より絶縁油リサイクルセンターで分解処理を行っています。

絶縁油を抜いた後のPCBが付着した柱上トランス容器の処理施設についても、2008年4月の運転開始を目指し、建設を進めています。



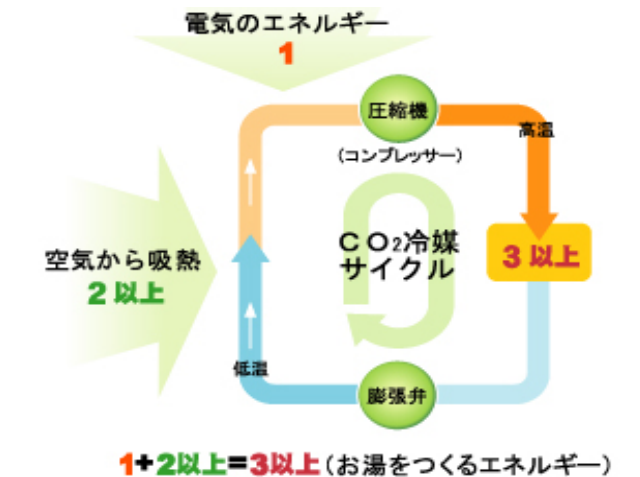
絶縁油リサイクルセンターおよび低濃度 PCB 容器処理施設 (合成写真)

環境にも家計にもやさしいエコキュート

エコキュートは、空気の熱を吸収して熱エネルギーをつくるヒートポンプ技術を活用した経済的な給湯器です。

従来の燃焼式給湯機に比べて CO2 排出量を約 40%も削減できるため、環境にもやさしい給湯器です。

北陸電力と北陸電力リビングサービスでは、エコキュートの普及を推進しています。



<エコキュートを使用して>

エコキュートを使い始めてから1年半ほど経ちますが、お風呂に入ったときにお湯がまるやかでとても気持ちいいです。初期投資としては少し高いかなと思いましたが、毎月の光熱費の安さが思った以上で、環境にも優しいので、うれしく思います。

(富山市在住 高原さんご家族)

「北陸電力グループCSR報告書2007」の詳細は当社ホームページ「CSRへの取組み」(<http://www.rikuden.co.jp/csr/>)を、ご覧下さい。